

# 街の活力は 自立と創造から

# あのまちこの街

編集 北海道商店街振興組合連合会  
〔あのまちこの街 編集委員会〕  
札幌市中央区北1条西2丁目

## ものづくりを本格化させる

### プロジェクトを結成して 地域の資源で新商品開発



#### 八戸市六日町 商店街振興組合 (青森県八戸市)



#### 18回を数える「はしご酒」

八戸市は東北屈指の工業水産業のまちである。昭和三十年来の急速な人口増加により商業も発展した。中心商店街の歴史ある十二の町名には三日・六日・八日・十三日・日付がつく。六日町は大手筋に面する商人町で、藩制時代初期から城下での魚の独占販売権が認められ「肴町(さかなまち)」と呼ばれていた。八戸市内には四つの振興組合があるが、その中でも六日町商店街振興組合の歴史は十一年と浅い。任意組合時代から実施しているイベント「ナイトオリエンテーリング」など商無しの豪華商品は、毎年好評だ。

#### キーワードは「魚」と「海」

振興組合設立から十年が経ち、組合員はスタート時の二百八人の約半分に激減していた。工業の衰退や大型店の出店なども影響しているといえ、何とか組合員を増やし街づくりに乗り出そうと、森貝理事長は思っていた。平成十三年七月「はちのへ六日町ものづくりプロジェクト推進委員会」を発足した。同委員会は学識経験者、専門家、消費者と六日町商店街の魅力を再評価し、

#### 委員自らが本格酒造り



町商店街振興組合より選出された二十八人で組織した。翌三月まで十三回に及び講演会やパネルディスカッションを行なった。多様な意見が出されるなか、長岡造形大学の豊口学長のアドバイスで肴町にちなみ、キ「魚」をモチーフにした試作商品はガラス工芸品、魚型テンプル、加工食品、日本酒など次々と生まれた。日本酒「海のささやき」は、現在のラベルで第三世代になる。最初の年は四合ビンで千六百円の純米酒。一昨年は本醸造酒千二百円を三百八十本販売した。さらに昨年は千本作ってすでに五百本売れた。贈答用の

#### 実験的事業でアンケート

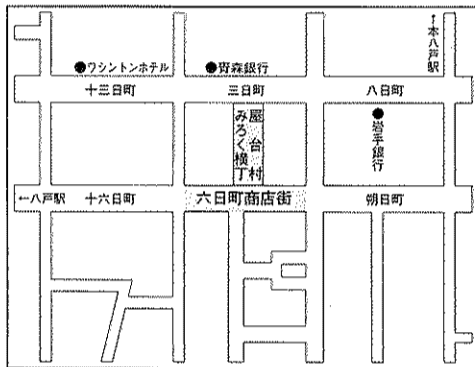
平成十三年十二月六日には商店街の空き店舗を利用して「ま・さ・か・なハウス」をオープンした。オープニングのイベントでは八戸らしい演出を生きた「イカ」の泳ぐ水槽を設置。インターネットで動画を配信した。

#### 食が賑わい創出のテーマ

六日町商店街では毎月六日・十六日・二十六日に「六日市」を開催する。飲食店が多く昼間は人通りが少ないうち商店街も、この日は朝から大勢のお得意さんで賑わう。絵画展「商店街タウンギヤラリー展」は昨年十二月で三年目になる。県の推進事業として毎年実施しており、市民の展示を気軽に受け付けている。商店街が中心になり「食」をテーマに街の賑わい創出を目指す動きがでていた。中心市街地の空洞化が進むなか、地権者の同意を得て、老朽化した店舗を撤去し平成十四年十一月「みろく横丁」を開設した。敷地約八百平方メートル、二十四店の屋台が所狭しと軒を連ねる。昨年十一月には新幹線は「やて」が開業一周年を迎えた。商店街でも記念のイベントを実施した。十一月三十日に「第一回



「ま・さ・か・なハウス」に展示中のオリジナル商品「ま・さ・か・なハウス」を開設。講演会やパネルディスカッション、委員会の内容を一般に公開したり、Tシャツのデザイン選定にあたりアンケートを実施するなどした。



昨年で18回目を数えたナイトオリエンテーリング



常連客で賑わう「六の市」



「みろく横丁」は六日町商店街の一角にある

## 商店街憲章



わたくしたちは、商店街の組織のもと振興・融和・団結をめざします。

- わたくしたちは、常に地球環境に配慮して、豊かな未来づくりに努めましょう。
- わたくしたちは、常に世界に目を向け、小売商業の振興と北海道の発展に努めましょう。
- わたくしたちは、常に地域住民とともに、人間主義の豊かな地域社会づくりに努めましょう。
- わたくしたちは、常に自己啓発し、真の商人道を追求して、地域住民の生活安定に努めましょう。